対タジキスタン草の根・人間の安全保障無償資金協力
ペンジケント市ヴォル地区第５１初等学校建設計画

ペンジケント市は、タジキスタン北西部に位置するタジキスタン第５の地方都市です。同市はウズベキスタンと国境を接することから、かつては人や物の流通が大変盛んでしたが、現在は両国の関係が悪化しているため、流通量は減少しています。

今回、支援対象となったヴォル地区第 51 初等学校は、ペンジケント市中心部から南東に 65km 離れたヴォル地区のヴェン村という山間部の村に位置しています。100 世帯 500 人が住むこの村には、1985 年に唯一となる初等学校が建設されましたが、地盤沈下や地震による建物の一部崩壊などで現在は使用不可能な状態にあり、村の子供達は 1955 年に建設された老朽化の激しいモスク（イスラム教の礼拝所）で勉強していました。

こうした現状を踏まえ、我が国はタジキスタンの今後の発展に不可欠な人材育成を支援する観点から、同校の新校舎建設の支援を行いました。

引き渡し式でテープカットを行う小松書記官とガドエヴァ・ペンジケント副市長（写真中央）。

日本の支援により建設された新校舎。
険しい斜面に建っているのがわかります。

内装・外装共に施工状態は良好で、安全で清潔な学習環境が実現しました。

日本の支援を示すＯＤＡサインボードは校舎の入り口に設置され，各教室のドアや窓にもステッカーが貼付されています。

タジキスタン教育省により机・椅子・棚等の教育備品が整備されていました。

新校舎の前で並ぶ生徒達と大使館員の記念撮影。